

○北本市新型インフルエンザ等対策行動計画（案）に対する意見とこれに対する市の考え方

NO	北本市新型インフルエンザ等対策行動計画（案）に対する意見	市の考え方
1	<p>①市行動計画の改定概要で、4 実効性の確保 定期的な改定を行うとともに、実践的な訓練を実施するとあるが、実践的な訓練とはどういうものを示すのか？具体的な例を挙げておくとう理解しやすい。</p>	<p>市行動計画は、新型インフルエンザ等対策特別措置法により、県が策定する行動計画に基づき作成することとされております。</p> <p>県行動計画においては、具体的・個別的な取組内容までは示さず、基本的な考え方や対応の枠組みを示す構成となっていることから、本行動計画においても同様の整理としております。</p> <p>実際には、新型コロナウイルス感染症への対応経験を踏まえ、感染症発生時において新型インフルエンザ等対策業務や通常業務を円滑に継続するため、平時から必要な事項について行う訓練を想定しております。</p>
2	<p>子育てしやすく、住み続けたいと思える場所を2年程探し続け、ようやくみつけた、北本市。2025年に引っ越して来ました。</p> <p>まだ住み始めてから1年経っておりませんが、地域のイベントが豊富で、近所の方も親切にしてくださり、とてもいい環境に恵まれていると感じております。いつもありがとうございます。</p> <p>そんな、ずっと住み続けたい街でぜひ取り組んでいただきたいのが、住民の皆様への食事の啓発、ワクチン選択の尊重を訴えることです。</p> <p>インフルエンザなどの感染症は、食事を見直し、免疫を高めることで感染予防につながると考えております。</p> <p>色々な健康法が広まっている中、私がこれはぜひ多くの方に知っていただきたい、と思ったものが四毒抜き(小麦・植物油・乳製品・甘いものを抜くこと)です。</p> <p>まず、実践したのは母親でした。LDLコレステロールは、薬を飲まないと下げることができないと思われていますが、四毒抜きを実践した母親のLDLコレステロール値は、260あったものが、正常値になりました。</p> <p>とても批判の多い方法なので半信半疑でしたが、母親で治ることが証明されたので、これはやってみるしかない、と、私の家庭でも実践してみました。</p> <p>すると、2歳の息子のアトピー性皮膚炎が、ステロイドを使わずに治ってきました。まだ3ヶ月経っていないので、完治はしていませんが、何箇所もひどい痒みに悩まされていたものが、残り一箇所になり、終わりが見えてきています。</p> <p>実践している人の声を聞くと、インフルエンザやコロナなどの感染症にもかかりにくくなるそうです。</p> <p>完全に四毒を抜く人もいれば、自分の身体に合わせ、緩い四毒抜き食生活にする方、全く取り組まない方など様々な方がいらっしゃいます。</p> <p>選択するのは個人です。</p> <p>同じく乳幼児に打つワクチン、インフルエンザワクチン等も、選択は自由だと思います。</p> <p>ですが現状は、圧倒的にワクチンを推進しており、国民もワクチンが安全で健康につながるものと考え、赤ちゃんが生まれたら自動的に打たなければならないというような風潮です。打っていないと白い目で見られます。打たないことが、虐待だと言う方もいます。</p> <p>コロナが流行した時に、日本人でワクチンの実験をして多くの方が亡くなっているという事実があるところから、もっと国民に全てのワクチン全般について考えさせるべきです。しかし、世の中の多くの人が触れる情報(テレビや新聞、CMなど)では、推進一択で、反対の意見には触れることはなく、疑う力も奪われた状況から、比較する、ということをかなり難しいものにしていると思います。</p> <p>ワクチンも商品です。</p> <p>買わない人(打たない)の選択を尊重できる世の中に、北本市からはじめてほしいな、と考えています。</p> <p>以上の2点は、真偽を含め、様々な方面への配慮を考えると、市として取り組むには中々ハードルが高いものだと思像します。</p> <p>四毒抜きに関して言えば、給食を改善するなど、色々な取り組み方法があるかと思います。オーガニック給食や、ミートフリーマンデーがあるなら、四毒抜き給食があっても面白いと思います。"なにそれ"と関心をもつきっかけを少しでも与えることが、教育としてもとても大切なことではないか、と考えます。</p> <p>私の家族の実体験を踏まえ、ぜひ、日本人にとっての食事の大切さを啓発し、ワクチンを考える機会を与える、ということを経ひ、感染症予防対策として取り入れていただければ幸いです。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p>	<p>栄養・食生活は、健康を保持・増進していくために規則正しいバランスのとれた食事を摂取するなどの正しい食習慣を身に付けることが重要です。市では「第二期北本市みんないきいき！健康なまちづくりプラン（健康増進計画・食育推進計画・歯科口腔保健推進計画）」を策定し、計画的に推進しております。一方で、特定の食事法については、科学的根拠や国の指針との整合性を踏まえ、市として推奨することは慎重に判断する必要があると考えます。</p> <p>予防接種は、「個人を守る」と「社会を守る」の2つの役割があります。予防接種は、その病気に対する免疫をつける、免疫を強くするために、ワクチンを接種することを言います。ワクチンを接種した方が、その病気の発症あるいは重症化を予防することができます。また、人に感染させてしまうことで社会に病気がまん延してしまうことを防ぐこともできます。</p> <p>一方で、ワクチンの接種により副反応（副作用）が起きることがあります。日本では、ワクチンの安全性を確認するため、ワクチン接種後に生じた症状について継続的に情報収集を行い、収集した情報について、国の審議会で報告し、定期接種として安全性に問題がないかを専門家が評価しています。</p> <p>予防接種を行う際は、接種するワクチンのメリットや副反応（副作用）について接種医などと相談し、予防接種を受けるかどうかは、予防接種の効果や副反応などについて十分に理解したうえで、ご本人または保護者が判断するものとされています。本計画の第2章「情報提供・共有、リスクコミュニケーション」では、市民等が科学的根拠に基づき判断・行動できるよう、正確な情報を分かりやすく提供するとともに、双方向のリスクコミュニケーションや不安の解消、偽・誤情報への対応を行うことを位置付けています。市としましては、本計画に基づき、国・県の方針と整合を図りながら、適切な情報提供に努めてまいります。</p>